

岡山繊維産地協議会 検討会議準備委員会 (人材確保のための産地PR検討委員会)

議事要旨

日時：令和6年8月21日(水曜日)15時00分～17時00分

会場：倉敷ファッションセンター1F ギャラリー(岡山県倉敷市児島駅前1丁目46番地)

議事要旨：

事務局より開会挨拶、本日の趣旨を説明した。

意見交換をファシリテーター佐藤豪人氏にて行った。

- ・ 児島の繊維業界の課題は、児島商工会議所の取り組みとも重なる
今後の課題は、「今後この産地をどのような産地にしたいか」若手が考えるべき
本日参加の皆さんは、今後についてどう考えているか
- ・ 会社はワーキング分野。この地域に愛着がある
- ・ 会社は学生服分野。
いつまでも産地内の企業が互いに孤立して競うより、産地の維持には協力して取り組むことが必要
- ・ 会社はデニム分野。
会社は学生服ほかの業務を受託しており、縁の下の力持ちと考えている
学生時代にはジーンズに興味が無かったが、現在ではデニム・ジーンズは面白いと感じている
- ・ 会社は学生服分野。入社前は産地のことについて何となく知っている程度であったが、現在では、地域の強みであり、より広く知られてもよいのではないかと考えている。

- ・ 各社の採用状況についてはどうか
- ・ 県外からの採用もあるが、地元からの採用が多い。
- ・ 大半は地元からの採用である。遠方でも倉敷地域からの採用である。
- ・ ほとんど地元からの採用である。50代以上は地元から、若い方は広域より採用
- ・ ほぼ児島である。若い方は全国から応募あり採用している
- ・ 児島内での採用は全社で約10%である
- ・ 児島商工会議所では、市立短大の学生が産地の企業へ就職してもらえるよう、ポスターを作成した

- ・ 各社の平均年齢はどうか
- ・ 40代半ばである。
- ・ 半数以上は40代以上である。
- ・ 平均年齢は38.5～39.5歳。80歳を超えても勤続してもらう人もいる
水島の大手企業には賃金面では勝てない。そこで、若い人材に高い月給を出すより、優秀で東京に出たものの経験を積み少し疲れてUターン希望者を採用するイメージ

- ・ 40代以上は退職までの期間が短く、20代は採用後転職の可能性が高いため、いずれも採用は困難なイメージを持っている。そこで、年配の方で良いと考えている。
また、若手を採用しようとする、社内に若手も必要になる。
- ・ 60歳以上の従業員も多い。
- ・ ジーンズ業界には若い経営者が多い。社長が若く、その周りの人が加わっている様子。
しかし、企画などの専門職は地元での採用は困難。計算等数字が得意でなければならない。
最低賃金に近い金額で募集している状況で、採用は金額面では魅力薄い。
働き甲斐や社の魅力をアピールしての採用を考えている
- ・ 魅力のアピールが課題である
国内工場が必要だが、商品として必要な顔に仕上がる縫製ができる工場が必要である
- ・ この地で働く人の魅力とは？なぜここで働くのか？
- ・ 兎島についてのイメージは良くない。
- ・ 適材適所である。
ミシンが苦手でも、加工が得意でその分野で輝く人材もいる
- ・ 新疆綿が問題になっているが、兎島でもコンプライアンスが重要になるのでは？
人材が欲しいのか、それとも安い人材が欲しいのか
最低賃金でも厳しい企業もあるかもしれないが、最低賃金では人は集まりにくいだろう。
そこで、倉敷ファッションセンターとして、賃上げする企業に認証マークを付与してはどうか
- ・ 人手不足が問題になっているが、ユーザーである着用者も減っている
- ・ 倉敷ファッションセンターには、職業訓練校になってほしい。例えば、1年間学校で経験を積めば、その後兎島で働ける、など。
安い賃金で縫製を担ってくれる人材が欲しいという要求は、無理である。
- ・ 学校は以前に検討したことがあったが、分野ごとに縫い方、求められる技能は異なり、更には企業毎にも縫い方が異なるのが実情。また、作れば作るほど在庫が発生し、販売しなければならぬという状況になり、課題が多い。
- ・ 学校は、ジーンズ、ワーキング、スクールでカテゴリを分け、分野毎に教育が必要だろう。
加えて、生産効率も学ぶ必要がある
- ・ 産地にはクリーンなイメージが必要
認証取得が必要では
- ・ 認証は、認証取得用の工場で受験し、現実の生産は認証取得が不可能な工場と区分しなければ成り立たないような、現実と乖離した基準を用いているとも聞か
- ・ 日本はまだ、海外から、働きたい国として選ばれるか？
- ・ コンプライアンスなどにきちんと対応しているということが必要であり大切
勉強も必要

イメージは大切に、それを打ち出せば評判につながる。

モンベルなどのブランドを参考に。

各社に考えてもらい、イメージを崩さないよう、ある程度のレベルで維持できるよう教育も必要。基本はオンラインで研修を実施。現地でのインターンシップとして企業を回ってもらえばよいのではないか。「織博」で実施している内容が理想。

教育を行う学校をつくる必要あり

皆でクリーンな方向へ行こうという方向で共通認識する

名称は、児島繊維産業未来塾、など

若手が作り上げた先進的な街に。10年後に各地より視察に訪れられるような

キーワードは、クオリティ、環境、人、など

せんいまつりは、「アパレル廃棄ほぼゼロ」「お手軽に高品質を」を目指している

環境にやさしい産地を目指したい

・せんいまつりは、高品質を目指すべき

・11/14に岡山繊維産地協議会の全体会議を予定しているが、そこでの主たる事業として講演会はどうかと考えている

皆で産地と、産地の未来について考えるに最適な講師はどのような方会検を聞きたい

・産地のこと、街づくりのことに詳しい講師が良いのでは

山崎亮さんのコミュニティデザインもテーマに合致するのでは

【まとめ】人材確保のための産地PRの検討会議を立ち上げるに際し、準備委員会として若手経営者に参加いただき、方向性を探った。この会議を継続し方向性が定まれば、検討委員会として参加者を募集し、議論を進め事業化していきたい。

以上

お問い合わせ先

岡山県産業労働部産業振興課地域産業班

電話：086-226-7352 FAX：086-224-2165

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki43/>

一般社団法人倉敷ファッションセンター

電話：086-474-6800 FAX：086-474-6801

<https://www.k-fc.com/>